



広島市教育センター

司書教諭・学校図書館担当教諭研修

大塚中学校

研修紹介 生徒の声を活かした図書館づくり

読書の秋、読書週間も始まり、各園・学校でも、読書関連の行事が設定され、学校図書館を利用する機会が増えているのではないのでしょうか。

今回紹介する大塚中学校は、生徒が「図書館に行ってみよう」「本を借りたい」と思える場所づくりを目指し、平成28年度から3年計画で様々な取組を行ってきました。その結果、平成30年度には①図書館利用率が5%(H28)から42%(H30)に上昇し、②広島市子ども読書活動推進計画(第三次)に示す令和2年度の目標値を達成しました*1

*1・1ヶ月に1冊以上の本を読む子の割合(中2)90.2%(目標値:87.3%)
・授業時間以外に読書をする子ども割合(中3)80.7%(目標値:74.1%)

さらに平成31年度の全国学力・学習状況調査の「読書は好きですか」の質問に70.9%の生徒が当てはまる結果となりました(全国68%、広島県69.2%)。

このような成果をあげた大塚中学校の取組の中心は、生徒の声を活かすことでした。今号は、その取組内容を紹介します。

年次	事前 生徒の声	取組内容	事後 生徒の声
1 「わかりやすく」	<p>本の借り方ってどうするの？</p> <p>どこにどんな本があるの？</p> <p>図書館の本はいつも同じなの？</p>	<p>学校司書が、各学級の朝会で説明しよう！</p> <p>図書館の案内地図を作ろう！</p> <p>新刊などを紹介する「本のおすすめコーナー」をつくろう！</p>	<p>友達に「本を選んであげる」と言われて、一緒に図書館に行って、本を選べた。</p> <p>おすすめのコーナーや新刊コーナーなどを見て「何かないかな」と探すのが楽しい。</p>
2 「親しみやすく」	<p>国語科で学習している「川柳」の本は置いてある？</p> <p>図書館に行けない時もある。だから他の場所でも、本が読めないかな？</p>	<p>教科書に載っている本を集めたコーナーを作ろう！</p> <p>他の部屋にも貸し出ししよう！</p> <p>例えば・・・ 保健室(30冊) 音楽室(20冊) ふれあいひろば(30冊) 各学級(35冊) コンテナに入れて2か月ごとにローテーションをする。</p>	<p>図書だよりでの本の情報を見て、借りたいと思うようになった。</p> <p>リクエストに応えてもらい、読みたくなった。</p> <p>友達が書いた紹介カードの本に興味をもった。</p>
3 「使いやすく」	<p>どのように図書館を活用したらいいかな？</p> <p>利用調べ</p> 	<p>授業で活用しよう！</p> <p>活用した本を紹介するカードを作成し、展示しよう！</p> <p>技術部制作の憩いのベンチ</p> 	<p>自分が授業で作成した作品が飾られてあって、うれしい。</p> <p>ベンチができて、友達と座って、本や雑誌を読むことが楽しくなった。</p>



<学校司書の先生より>

最初の年は、生徒が図書館に来ることが少なく、貸出率も低かったです。その中で、生徒の声を活かして図書館を整備していくことで、図書館に行ってみよう、本を借りたいと思える場所になればと、3年間をかけて取り組みました。その成果として、今では、休み時間や放課後には図書館が生徒であふれています。貸出冊数も年々増え100冊読破の生徒もいます。現在は、先生方にも、本の紹介カードを作ってもらったり、授業で本を積極的に使ってもらったりと、ともに図書館運営に関わっていただいています。今後さらに授業に利用できる資料の充実を図り、授業での図書館活用を推進していきます。そのためにも、普段の学習と結び付くように、日頃から司書教諭の先生方と連携を図っていきたいと思います。

<校長先生より>

生徒の声に応えるべく、学校司書や司書教諭と地域・保護者の方々(図書ボランティア)が連携し、図書館の環境整備等を行っていただいています。生徒たちの「知りたい」「調べたい」といった知的好奇心をくすぐるディスプレイは見ごたえがあり、学校全体で、いつも楽しみにしています。図書館は、生徒にとって、現代を生き抜くために必要な「自分で考える力(課題設定力)」「自分で調べる力(調査・整理・分析力)」「自分で動く力(実践的行動力)」という一連の力を養う場であってほしいと思います。また、学校司書にたずねながら本と出会うことは、思索の時間であり、ひいては生徒の豊かな学びの時間につながると考えています。これからも、学校図書館の活用をさらに充実させることを通して、生徒の豊かな学びを支えていきたいと思います。